



永田等本部長

「ミューテリアをブランド化して高品位な商品を提案し
諸先生方にご指導を仰ぎながら、大きく育てて
販工店様のビジネスチャンスにつなげたいと思います」

こういうかたちの開発も増えてくるのでは。同様に、販工店様の提案力によって、街並みが変わる可能性もあるんです。そういう自負をもってエクステリアに取り組んでいただきたいですね。それにしても、ここは鳥が多いですが、カラスはいないですね。

町田 どうもローズマリーが、カラスを寄せつけない効果があるみたいですね。ガーデン部分は全部築山にして、いろんな高さに植物を植えました。また歩く地面にはゴムの再生材を使いバリアフリーにして、子どももお年寄りにも安全に歩きやすく工夫してあります。老人ホームや託児所もあります。なのでここは、ママさんチームと、ネクタイをしめた人たちがミックスする面白い空間になっています。

トミタ 違う社会でのパートの人たちが同じ空間を共有するということは、お互いを意識してとてもいいと思いますね。そうでないと自分中心になってしまますから。

植栽や石材と融合するアルミ

永田 当社では今、日本らしさをどう捉えるかという模索をしています。同時に、先進的で新しい価値空間や、生活シーン



の創造提案をミューテリアと呼び、ブランド化して高品位な商品を提供していくと。その第1弾が「M.シェード」です。ほかにも、たとえば音にこだわって、品位ある音のする門扉といったものも提案していきたいですね。

トミタ 音というテーマも面白い。日本の庭は昔からししおどしや水琴窟のように、聴覚を演出する仕掛けがありましたから。

永田 そのほか、外からは見えにくく中からは見やすい台形の格子門扉なども考えています。こういうのも、これからのすぐれた日本的なものではないかと思えます。

トミタ 庭というと「見る庭」もありますが、「活動の拠点」としての一面があると思うんです。活動とは、集いだったりホビーだったりコミュニケーションだったり、生活の場がそこに生まれてくる。M.シェードの屋根は、昔の人が実現したかった光を遮らない屋根なので、デザイン素材として面白い。それにアルミは100%リサイクルできる優れた素材で、経年変化がほとんどなく、つまり環境負荷が低い。現実的に環境負荷を考えれば、木を伐採してパーゴラをつくるよりアルミのほうがいいわけです。

永田 アルミという素材は、植栽や石材や陶器などの融合体をイメージしながら、生活を豊かにしていく素材。存在感はあっても、あまり自己主張しない素材かなと思いますね。

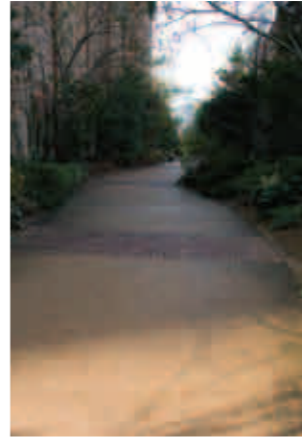
町田 グッドデザイン賞を受賞したアルミのエレベーターがありますが、アルミ素材は景色を映すので、グリーンを1.5倍ぐらいに見せる効果があるんです。

トミタ アルミというと倉俣史郎さんの作品をイメージするんですが、繊細で美しく、ある意味日本的ではないかと。控えめに使っても、差し色として使ってもきれいだと思います。また、構造体になってその上に緑があったり、木と融合したり。そんなこともこれからのデザインとして出てくると思えます。

いわゆるオフィスビルとは大違い、晴海トリトンスクエアの庭は木々や植栽でこんなに緑豊かな。背景の高層マンションは住宅棟。



5年でこんな大株になったローズマリー。この芳香がカラスよけに？



ヨーロッパのような趣のある小径。弾力のあるゴムを混ぜた床材でバリアフリーにつくられています。ツタのからまった左の建物は立体駐車場。

2007年の抱負とアドバイス

永田 最後に、次世代を担う旗手として、新春の抱負をお聞きたいのですが。

町田 当アカデミーは「はじめに暮らしありき」をモットーに、インテリア・ガーデン・店舗・福祉の学校として、豊かな暮らしを創造し、常にライフスタイルを見つけられる人を育てていきたいと思っています。

トミタ まわりの人としっかり関われる、開かれた街・開かれた家をやさしいかたちで表現していきたいですね。特定のライフスタイルの人だけでなく、ステージ・世代・ジャンルが違うすべての人が融合的に楽しめる、そういった視野で住宅もオフィスも設計していきたい。都市に住もうという動きには、オフィスにいる人と家庭・子どもが一体的なコミュニティをつくれるメリットがあります。僕らデザイナーが、そういう融合的な動きを実践していかなければいけないと思います。

永田 販工店様へアドバイスもお願いします。

町田 お客様が多様化し、勉強されるようになってきているので、対応が大変だと思えます。お互いにできることを考えて、コラボレーションしましょう。ご自身ももっと視野を広げたいなら学ぶ場所もあります。お客様の知識は断片的なもの

です。「暮らし」の目線での提案力、総合的にまとめるプレゼンテーション力をつけてください。

トミタ 大事なものは、自信を持つことだと思います。自分のイメージを一生懸命語ると、まわりは、そんなに一生懸命ならたぶんいいんじゃないかと同調してくれるはず。もちろん勉強して自分のなかにストックし自信をつけていく作業は大事だと思います。でも、出るとこへ出たらヘジテイト(躊躇)しないで、表現者に徹することも必要。自信を持てばクライアントも納得するし、自分にもプレッシャーがかかり、それが結果的によい創造のエネルギーになります。

町田 家は建てたときから中古になりますが、庭はつくったときから始まります。庭が育つことで家の価値が高まる、つまり、庭が価値を高めるんです。庭は外部空間でもありますから、庭を美しく育てることは、街を、環境を変えていくことにもつながります。

永田 当社では今年を「ミューテリア発進年」と位置づけています。今日お越しいただいた若い世代を担うお二人をはじめ、専門家の諸先生方からのご指導いただきながら、ミューテリアを大きく育てて、販工店様のビジネスチャンスにつなげていきたいと思っております。本日はありがとうございました。



町田瑞穂ドローテア氏

「家は建てたときから中古になりますが、庭はつくったときから始まります。つまり、庭が育つことで家の価値を高めるんです」